

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.6
Q1 室内環境					0.40			4.1
1 音環境				1.0	0.15	3.6	1.00	3.3
1.1 騒音				1.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル				1.0	1.00	3.0	0.50	
2 設備騒音対策				-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音				1.0	0.50	4.3	0.50	
1 開口部遮音性能		T-2以上		1.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		Dr-50以上		3.0	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-45以下		3.0	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		Lr-50以下		3.0	-	4.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境				1.6	0.35	5.0	1.00	4.6
2.1 室温制御				2.2	0.50	5.0	1.00	
1 室温				3.0	0.63	-	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		省エネ対策等級4を取得		1.0	0.38	5.0	1.00	
4 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				1.4	0.25	4.0	1.00	3.7
3.1 昼光利用				2.4	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率		住戸部 昼光率2.0%以上		2.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				1.0	0.30	4.0	0.50	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		庇とカーテンレール(カーテン)による制御		1.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				1.0	0.25	-	-	
4 空気環境				4.2	0.25	4.2	1.00	4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		対象外の建材も4 採用、ホルムアルデヒド以外のVOCも抑えている		5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.5
1 機能性				3.9	0.40	3.8	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸に100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能		3.0	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画		エントランスの内装バース作成、住居は詳細図等で内装や照明計画作		5.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内装面は防汚性の高い仕上げ方法や建材、塗装を採用している。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		バルブの日常的に調整が必要な機器は、操作が容易な位置にあ		4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.6	0.31	-	-	3.6
2.1 耐震・免震				3.4	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		免震装置の導入		5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.9	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		概ね75年～90年 劣化対策等級3取得予定		5.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		概ね30年以上		5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	更新必要間隔は最低40年間	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	大震災後に大きな補修をする事無く機能の保全が出来る	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブル、メタルケーブルの採用	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.8	0.29	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高2900mm以上	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材だけでなく、仕上げ材を痛める事無く更新・修繕が出来る	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛める事無く更新・修繕が出来る	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	主要設備機器の更新に対応したルート又はマシハッチが確保されて	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.6
1 建物の熱負荷抑制			5.0	0.40	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		潜熱回収型給湯器、LDE照明設備の採用	5.0	0.40	-	-	5.0
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	#VALUE!				
		集合住宅の評価	5.0				
4 効率的運用		燃料系潜熱 回収型ガス 湯沸器採用	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.63	-	-	3.2
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上げ	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤としてCO2を用い、フロン類を用いない	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCO2 71%	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.8	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン項目の過半数を満たし、屋外広告はない	5.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		1.0	0.30	-	-	